

---

# 死に桜

香

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死に桜

### 【Nコード】

N2140A

### 【作者名】

香

### 【あらすじ】

アナタの。私の。人生を一本の桜に例え、その個性を形、色、大きさに例えるとします。全てが終わる時にだけ、目前に咲く、私だけの。アナタだけの。桜の木はどんな姿形をしているのでしょうか。一緒に想像してみませんか？それは自分自身。美しい桜を見たいものですね？

## 黒桜・壱

幼い頃は

差し伸べられた

両手に

何度もすがりついた

今は

居場所　なんて

求めても

ただ空を切る手が

孤独を伝えるだけと知っているのに

「涙は必ず枯れ果てる」

後の

無へと帰る

その瞬間を

虚無感を

あなたは死と呼んだ

また、新しい人生がそこから始まる

産まれ変わるんだと告げた

それなら、

私は

死に続けたい

過去の

あなたのモノ

で在りたいと

願うから

## 黒桜・貳

うちがこの世界に入ったんは  
ちようど七つめの春やった。

物心ついたばかりの子供が親元から離れるんわ、この頃にはもう珍しいことやなかった。

いまだ記憶に新しい家族構成は

母親と義父。

それに義父方の息子が二人。

母の連れ子のうちは野良畜生より酷い扱いを受けとった。

空腹でゴミを漁るうにも、すべて家畜の餌になるんよ

うちは義父に媚びて…媚びて媚びて…それでやっと少しの飯にありつけとったんよ。

七つになったうちは義父に連れられて、初めて町に降りた。

強引な義父の腕に引かれ、息切れしながら見る町の景色はあまり印象に残りはせんかった。

船に乗って。

汽車に乗って。

遙か遠くの地へお出かけ。

初めての体験にうちは無邪気にはしゃいどった。

たどり着いたんは大きなお屋敷。  
見たこともない綺麗なおべべを着た大人達がその屋敷を出入りしよ  
った。義父の後ろに隠れながら、その華やかな世界を穴があくほど  
見つめ続けた。

「おや、旦那さん」

「その子かい？」

「昨晚言つてた義娘つてのは」

「… ああ。お嬢ちゃんちよつとこつちにおいで」

「ほら、飴玉だよ」

「美味しいかい？」

「…ふむ。」

「よし。買ったよ」

「じゃあ旦那さん、こちら方へ。」

「お嬢ちゃんはちよつとここにいてね……」

そのまま義父は帰って来んかった。

こん時、うちは岩国と名乗るこの男の、

この春屋の“持ち物”になつたんよ。

貧しい農村生活への未練なんて一つもなかった。  
目の前の華やかな世界に、魅入られてしもうてたんやね。

岩国の体は大きく、着物の上からもわかるほど骨ばった体躯の持ち主で

若くしてこの春屋を受け継いだ“優秀”な経営者や。

他の誰に言われるでもなく、この男に逆ろつたらあかんて体を感じたわ。

「お嬢ちゃん」

「名門春屋。桜宴へようこそ」

「君のお名前はなんて言うんだい？」

「そうか…名前すらつけてもらってないのかい…」

「この服、この臭い。ああ…こんなにやせ細って…」

「もう大丈夫だよ。ここにいれば暖かい飯をたらふく食える。綺麗なベベに身を包んで、常に美しくいられるんだ。」

「何も怖いことなんてないんだよ。」

うちは何を喋ればいいのかわからず、何を聞かれても首を振って否定するか頷くしかできなくて…ずっと話しかけてくる岩国を軽く苛立たせた。

何か喋らなあかん。パニック状態の頭ん中でフツと出てきた言葉は…

「さうたげ…」

この店の名前やった。

春を売る…体売る仕事は、男への媚び方をよう知ってたうちには適職やった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2140a/>

---

死に桜

2010年10月18日22時43分発行